

横浜開港資料館企画展示「明治の戦争と横浜」開催記念

《 シンポジウム 》 軍隊と横浜

戦後、長らく戦争や軍隊に関する歴史研究は忌避される傾向にありました。しかし、90年代に入ると、次第に軍隊に関する歴史研究が登場、さらに荒川章二『軍隊と地域』（青木書店、2001年）や上山和雄編『帝都と軍隊』（日本経済評論社、2002年）を契機に、軍隊と地域社会との関係を考える研究が進みました。さらに近年はシリーズ「地域のなかの軍隊」（吉川弘文館）や「軍港都市史研究」（清文堂出版）が企画されるなど、近現代史研究の一つのながれをつくっています。また、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館「佐倉連隊にみる戦争の時代」（2006年7月4日～9月3日、後に常設第6展示室）をはじめ、各地の博物館・資料館においても「軍隊と地域」をテーマとした企画展示が開催されています。戦争や軍隊に対する歴史学のアプローチは大きく変化しました。

そうした歴史学界の最新の研究動向を踏まえつつ、本シンポジウム「軍隊と横浜」では、将来的な研究の進展を見すえながら、戦争・軍隊と横浜市域との関係について議論を深めていきたいと思っております。多くの方のご参加をお待ちしています。



西南戦争時、横浜の街で出港を待つ政府軍兵士

『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』1877年5月5日付 横浜開港資料館蔵

- 日時：2019（平成31）年1月12日（土） 13時30分～16時30分
- 会場：横浜開港資料館 講堂
- 受付開始：13時10分
- 定員：80人（応募者多数の場合は抽選）
- 参加費：500円
- 申込方法：往復はがきに、郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を記入の上、下記の住所にお送りください。はがきは1枚につき1名様だけの申し込みです。

〒231-0021 横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館 「軍隊と横浜」係まで

※文面が消えてしまう恐れがありますので、消せるボールペンでの記載はご遠慮ください。

【締め切り】 2018（平成30）年12月19日（水）必着

〔基調講演〕 荒川章二（国立歴史民俗博物館名誉教授）

「軍隊と地域」研究の現状と課題

〔関連報告①〕 中村崇高（出版文化社 シニア・アーキビスト）

徴兵制と横浜

〔関連報告②〕 吉田律人（横浜開港資料館 調査研究員）

横浜と軍隊の結節点

〔パネルディスカッション〕

コメント：上山和雄（横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館 館長）

司会・進行：羽田博昭（横浜市史資料室 主任調査研究員）

《講師・パネラー紹介》

荒川章二（あらかわしょうじ）

国立歴史民俗博物館名誉教授。1952年静岡県生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。静岡大学情報学部教授を経て、国立歴史民俗博物館教授。2018年3月退官。主な編著書は『軍隊と地域』（青木書店、2001年）、『地域のなかの軍隊2 軍都としての帝都』（吉川弘文館、2015年）など。



上山和雄（うえやまかずお）

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館館長。1946年兵庫県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。國學院大學名誉教授。前横浜開港資料館館長。主な編著書は『帝都と軍隊—地域と民衆の視点から』（日本経済評論社、2002年）、『柏にあった陸軍飛行場—「秋水」と軍関連施設』（芙蓉書房、2015年）など。



中村崇高（なかむらむねたか）

出版文化社シニア・アーキビスト。1975年東京都生まれ。東洋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。神奈川県立公文書館を経て現職。主な著書は「近代日本の兵役制度と地方行政—徴兵・召集事務体制の成立過程とその構造」（『史学雑誌』第118編第7号、2009年7月）、「郡役所廃止と海軍志願兵制度の転換」（大豆生田稔編『軍港都市史研究7 国内・海外軍港編』清文堂出版、2017年）など。

吉田律人（よしだりつと）

横浜開港資料館調査研究員。1980年新潟県生まれ。國學院大學大学院博士課程後期修了。主な著書は『軍隊の対内的機能と関東大震災—明治・大正期の災害出動』（日本経済評論社、2016年）など。

羽田博昭（はだひろあき）

横浜市史資料室主任調査研究員。1957年奈良県生まれ。明治大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。主な著書は「兵士となった市民の戦争体験—都市横浜の戦争」（『横浜市史資料室紀要』第7号、2017年3月）、「軍事郵便・手記から見た戦争」（『横浜市史資料室紀要』第8号、2018年3月）など。